

2019年度 古事記読書会「弥栄(いやさか)の会」第2回 報告書

開催日 第4土曜日 2019年6月22日(土) 読書会 9時半～11時半

開催場所 中日本建設コンサルタント(株)東京支社 会議室(四ツ谷)

参加者 5名(全て会員)

内容

(1)参加者自己紹介

(2)本日の朗読の進め方(リーダー)

四度目の「第四集 受け日(うけひ)」です。なかなか難しい内容ですが、繰り返し読む度に新しい気づきを得て理解を深めます。一節ごとに区切って感想を述べあいます。

(3)朗読

阿部國治著・栗山要編「新釈古事記伝 第四集 受け日」を車座になり全員で順番に輪読。

(4)読後感

○仕事をするときは必ず「うけひ」であり、真心を元にして最善を尽くすことと教えていただきました。「ひ」を受け取って、「ひ」を返す。「ひ」は真心であって、仕事では、真心と真心の顔き合いがなくてはならないのです。自分自身を振り返ると、雑な仕事をしているなど反省しきりです。毎回、阿部先生の言葉を口にする、反省することばかりですが、自分の行動や心を反省する時間があることは、ありがたいことです。反省すべき点について得た気づきを忘れることなく、日々、実践していかなくてはと思っています。

○「受け日」の中で、須佐之男命は、天照大神の真剣な数々の問いかけをきっかけに自分に与えられた大事な使命に気づき、天照大神の「ひ」を受けて、確かめ合い・うなずきあい、反省を繰り返して、やがては自分の中にある「ひ」に気づきます。天から与えられた使命を自覚するという事は、相当な覚悟をもって自ら事に臨むということであると改めて気が付きました。天から与えられるということは、すべての責任を背負う覚悟を持って自ら行動することだと心に刻みたいと思います。

○「受け日」は三度味わったことになりましたが、登場する神様たちの行動の意味や、言葉の意味、解釈の仕方など、毎回、新たな発見があります。今回は、前回に引き続き、書き下し文(原文である漢文を本居宣長が当時の読み方で書き下したもの)を読むことで、阿部先生の解釈による「本文」と対照することができました。それにより、阿部先生の解釈の奥深さ、想像力の豊かさを知ることができました。古事記をどのように読みとるかは、読み手の度量、心によると思います。阿部先生の解釈は、日本人の本来持っている真心、大和魂を信じることに根底にあるように思います。忙しく過ぎて行く日々の生活にあって、人とのコミュニケーションにおいて、いかに想像力を働かせることができるか、問われているような気がしました。

<2019年度の予定>

4月はお休み

5/25 終了

6/22 終了

7/27 参加者がいなかったので読書会はせずに、笹尾さん&須田の二人で四方山話をしました。

8/24←次回予定

9月はお休み

10/26???

11/23

12月はお休み

1/25

2/22

3/28

次回予定

2019年8月24日(土)9時半～12時@中日本建設コンサルタント(株)東京支社 会議室

今回は、「第五集 勝佐備(かちさび)」をじっくり味わいたいと思います。

連絡先：参加申込方法：開催日の1週間前までに、下記の必要事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

【必要事項】所属支部、氏名、同伴者の有無(ご関係)、緊急連絡先(携帯)

申込先：reading-circle@womencivilengineers.com (担当：須田)

以上